

平成 29 年定例 1 1 月会議一般質問

質 問 者	質 問 事 項 及 び 要 旨	質 問 の 相 手
今 田 光 弘	<p>小値賀町の職員が公務のために国内を旅行する際に支給される食卓料の廃止と宿泊料の見直しについて</p> <p>小値賀町職員旅費支給条例における食卓料と宿泊料について伺う。</p> <p>① 食卓料について。 例えばフェリー太古で小値賀に帰る場合、食卓料が 1500 円支給されている。食卓料とは食事代のことだと思うが、公務とはいえ食事代を公費で出すのはおかしいのではないか。廃止すべきではないか。</p> <p>② 宿泊料について。 現状は、県外での宿泊は 8400 円、県内では 7000 円が支給されている。 県内はまだしも、県外、特に大都市圏になると、この金額でホテルに泊まることはかなり困難である。公務であるにも関わらず自腹を切るのは職員の士気にも大きく関わる。増額してはいかがか。</p>	町 長
横 山 弘 藏	<p>国民健康保険の運営と課題について</p> <p>① 平成 30 年度から保険者が県に代わることによって、当町の国保事業にどのような影響、変化があるのか。又、当町の被保険者にとって、メリット、デメリットは何か伺う。</p> <p>② 6 月会議において、国保財政調整基金の減少などを理由に一人当たり平均 13,000 円の大幅な国保料の負担増が決定された。保険者が県に代わってから、6 年間激変緩和措置が取られるが、このまま国保財政調整基金が減少するとすれば、再度、国保料の負担が増すことになる。被保険者の負担を軽減する対策として、他の自治体のように国保会計への法定外繰入をどのように考えているのか伺う。</p>	町 長

	<p>③ 今後、当町の国保運営は、県の協議会等でその運営方針が決定されることになるが、都市部との医療サービスの水準に地域格差がある。当町の被保険者の立場を県の保険者にしっかり伝える仕組み、組織など、当町のガバナンス体制のあり方はどのようなになるのか伺う。</p>	
末 永 一 朗	<p>野崎島を含めた観光について</p> <p>本町においての基幹産業である農業、漁業に後継者がいない現状で、将来、まちづくりを考えると、観光を第2の産業として取り入れた方が町の活性化につながるのではないかと思うが、行政として、そのような考えはないか次の2点について伺う。</p> <p>① 野崎島を含めた小値賀の良さを生かした観光への具体的な取り組みをどう考えているのか。</p> <p>② 世界遺産に登録されると観光客は増えると思うが、本島へプラスになるための施策は考えているのか伺う。</p>	町 長
松 屋 治 郎	<p>地方創生実現のための人的施策について</p> <p>本町は過疎化を食い止めようと、農・水産業を始め観光関連等の産業振興策及び子育て支援策等さまざまな地方創生事業に取り組んでいる。</p> <p>結果、仕事はあるのに働き手や人材不足が目立ってきた。UIターン等の働き手、人材の確保、及び今後の人づくり、人材育成について伺う。</p>	町 教 育 長